

**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等**

1. 実践校について

実践校名	(ぎふけんりつよしきこうとうがっこう) 岐阜県立吉城高等学校		
	学科名	生徒数	学級数
	理数科	66	3学級
	普通科	248	9学級

2. 実践研究の対象

- ・全校生徒

各教科の授業、総合的な探究の時間、総合的な学習の時間、希望生徒による課外活動、学校設定科目等

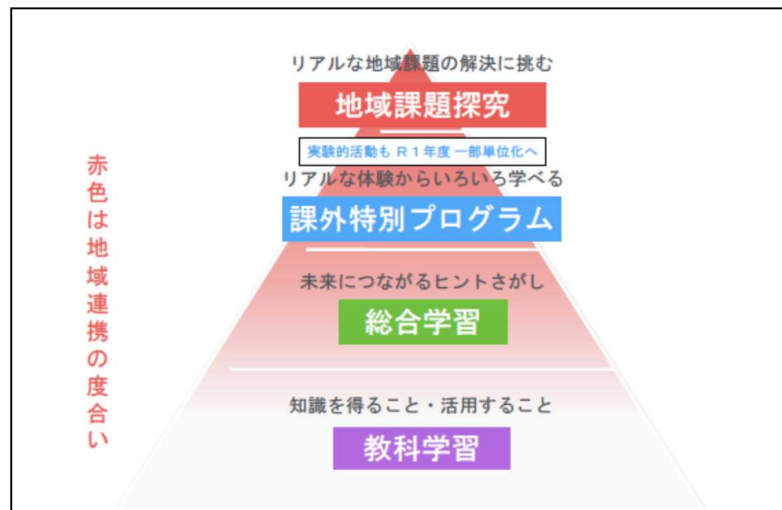
3. 実践研究の実施経過

地域をフィールドとする複数の課題解決型学習を試行錯誤しながら実践し、同時に、カリキュラムマネジメント、教員及び地域創生キャリアプランナー、キャリア教育コーディネーターの研修、他県の先進事例の調査や地域連携で活躍する方々との情報交換を進めた。

- 7月 9日 校内WG「吉城高校で身に付けさせたい力及びその検証・評価指標」を検討した。
- 8月 21日 校内WG「吉城高校で身に付けさせたい力及びその検証・評価指標」、「振り返りを活用した高大接続改革への対応と進路実現の仕組みづくり」、「ICT機器を活用した授業改善」を検討した。
- 8月 31日 有識者会議「学校運営協議会」にて、地域課題解決型教育の推進等の学校経営方針を協議・共有した。
- 10月 20日 学校設定科目「地域課題探究」(※1)による課題解決学習「飛騨みんなの博覧会孫の日」を実施した。
- 10月 27日 みらいずカレッジ(※2)「資質・能力を育むための授業づくりの理論と実践」に参加した。
- 11月 6日 校内WG「県外視察で確認すべき事項」、「令和2年度総合的な探究の時間」を検討した。
- 11月 14日 重点講話「ふるさと教育の可能性を考える一島根県立隠岐島前高校の魅力化計画から」に参加した。講師 豊田 庄吾 氏(隠岐島前高校魅力化コーディネーター、隠岐国学習センター長)
- 11月 26日 静岡県藤枝西高校、榛原高校視察。探究学習の先進事例を調査した。

- 12月 9日 重点講話「Society 5.0 に向けた人づくり—未来社会の担い手を育てる人材育成—」に参加した。講師 塩瀬 隆之 氏（京都大学総合博物館准教授）
- 12月14日 みらいずカレッジ「組織内外で巻き込み、探究学習を軌道に乗せるプロジェクト・ファシリテーション」に参加した。
- 1月 7日 浦崎太郎教授（※3）を招聘し、「課題解決型学習プログラム」を検討した。
- 1月15日 学校設定科目「地域課題探究」による課題解決学習「三寺ミッション」を実施した。
- 2月 7日 「吉高地域キラメキプロジェクト（YCK）成果報告会（※4）」を開催した。全校生徒及び中学生、地域の方々を対象にして、1年間の活動報告を行った。
有識者会議「地域連携による活力ある高校づくり推進協議会（※5）兼学校運営協議会」を開催した。
- 2月 8日 大垣ユネスコ協会主催「ESDパスポート体験発表会」に参加した。担当教諭が課題解決学習の取組を発表、他のユネスコスクール加盟校の生徒と交流した。
- 2月23、24日 SCHシンポジウム（※6）「高校生も大人も“変態”できる学びの土壌づくりとは？」に参加した。

- ※1 学校設定科目「地域課題探究」…今年度から本校が単位制に移行することを踏まえ、これまで課外活動であった「吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクトリーダー活動」及び「台湾交流派遣研修」を、学校設定教科「ESD」における学校設定科目「地域課題探究」及び「国際理解探究」として教科担任を配置し、各1単位として認定した。なお、「YCKプロジェクトリーダー活動」とは、「YCKプロジェクトリーダー」となった生徒のグループが、学校や地域が用意したメニューではなく、自分たちで課題を発見し、解決策を企画・運営し、キャリア教育コーディネーターによるファシリテーションやコーチングを受けながら、多様な人々と協働しながら課題解決に取り組む、課題解決能力を身に付ける活動であり、平成29年度から始まった。YCKプロジェクトについては、※4を参照。
- ※2 みらいずカレッジ…「未来にふみ出す学びを子どもたちへ」を掲げてキャリア教育に取り組むNPO法人みらいず works（新潟県新潟市）が主催する講座。2019年度テーマは、「地域と学校で協働してつくる探究学習」。
- ※3 浦崎太郎教授…大正大学地域構想研究所教授。元岐阜県立高等学校教諭。地域連携に係る実践的な取組で評価されており、平成27年には、本校職員及び飛騨市職員の研修に講師として招聘した。平成29年度には、同大学の学生が実習の場として飛騨市企業を調査した。
- ※4 「吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクト」…地域観光、地域福祉、地域教育、地域防災の4分野を柱とした、地域と連携して行う様々な活動。「地域が学びのフィールド！」をキーワードに、授業や総合的な探究の時間、総合的な学習の時間で実施する活動、放課後や休日に行う課外活動、学校設定科目「地域課題探究」を選択した生徒が自ら企画し実践するミッション型の活動等、様々なメニューがある。



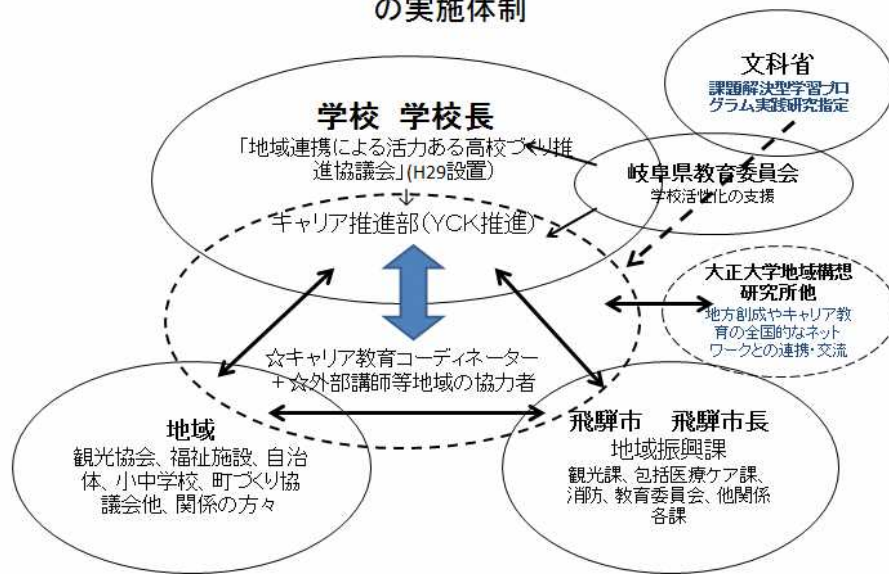
- ※5 「地域連携による活力ある高校づくり推進協議会」…岐阜県教育委員会の方針により、将来1学年3学級規模以下になる可能性のある高校に対し、学校に設置された協議会。本校は平成29年度に設置し、市長や県議会議員のほか、地域の各界で活躍する有識者を委員に委嘱し、3年間をかけて学校の在り方及び活性化のための検討を行った。学校の経営や教育方針、運営に関する提言や評価をいただいた。
- ※6 SCHシンポジウム…SCHとは「スーパー・コミュニティ・ハイスクール」の略で、東北芸術工科大学（山形県山形市）が主催し、「高校を人材流出装置にしないために」の掛け声で始まったシンポジウムである。今回で6回目の開催となり、多くの教育関係者、コーディネーター、大学生、高校生が参加し、対話を通して地域との協働による教育改革を進めている。

4. 実践研究の実施体制

「地域連携による活力ある高校づくり推進協議会（平成29～31年度）」に加え、岐阜県教育委員会の施策により、今年度から「学校運営協議会」を設置し、コミュニティ・スクールとなったことから、両協議会を併せて、県議会議員、地元市長、地域の産業界及び教育関係者に委員を委嘱し、学校が提案した経営計画や教育方針、運営に関して協議し、新たな提言や評価をいただく場として、今回の実践研究の最上位評価機関として位置付けた。



実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムの実施体制



校内の運営組織として、分掌に位置付けた「キャリア推進部」が「YCKプロジェクト」の企画と運営を主導する中で、その一員として委嘱した「地域創生キャリアプランナー」「キャリア教育コーディネーター」に、様々な教育活動における地域との連携に協力していただいた。更に、委嘱した方々のコーチングやキャリアコンサルタント等のスキルを活かし、活動の意義の理解や動機付けのほか、TODOリストやスケジュール管理等、チームで活動するために必要なスキルを、生徒に対して教えていただいた。

研究の方向性については、「YCK推進調整委員会（キャリア推進部長及びキャリア教育コーディネーターのほか、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、学年主任等を含めた校内ワーキンググループ（WG）メンバーで構成）」を設置し、必要に応じて「キャリア教育アドバイザー」に委嘱した大正大学地域構想研究所の浦崎太郎教授の指導助言を受けた。WGでは、学習会のほか、地域連携に関わる大学や自治体、NPO等が主催するシンポジウムや講座への参加、先進校視察や他県の教育関係者との情報交換を行いながら研究を進めた。なお、地方行政機関として、「地元高校の魅力化」を所管する飛騨市総務部地域振興課が、市長や関係課（観光課、商工課、生涯学習課、地域包括ケア課、秘書広報課等）との連絡調整の窓口となり、市側の予算措置も担当した。

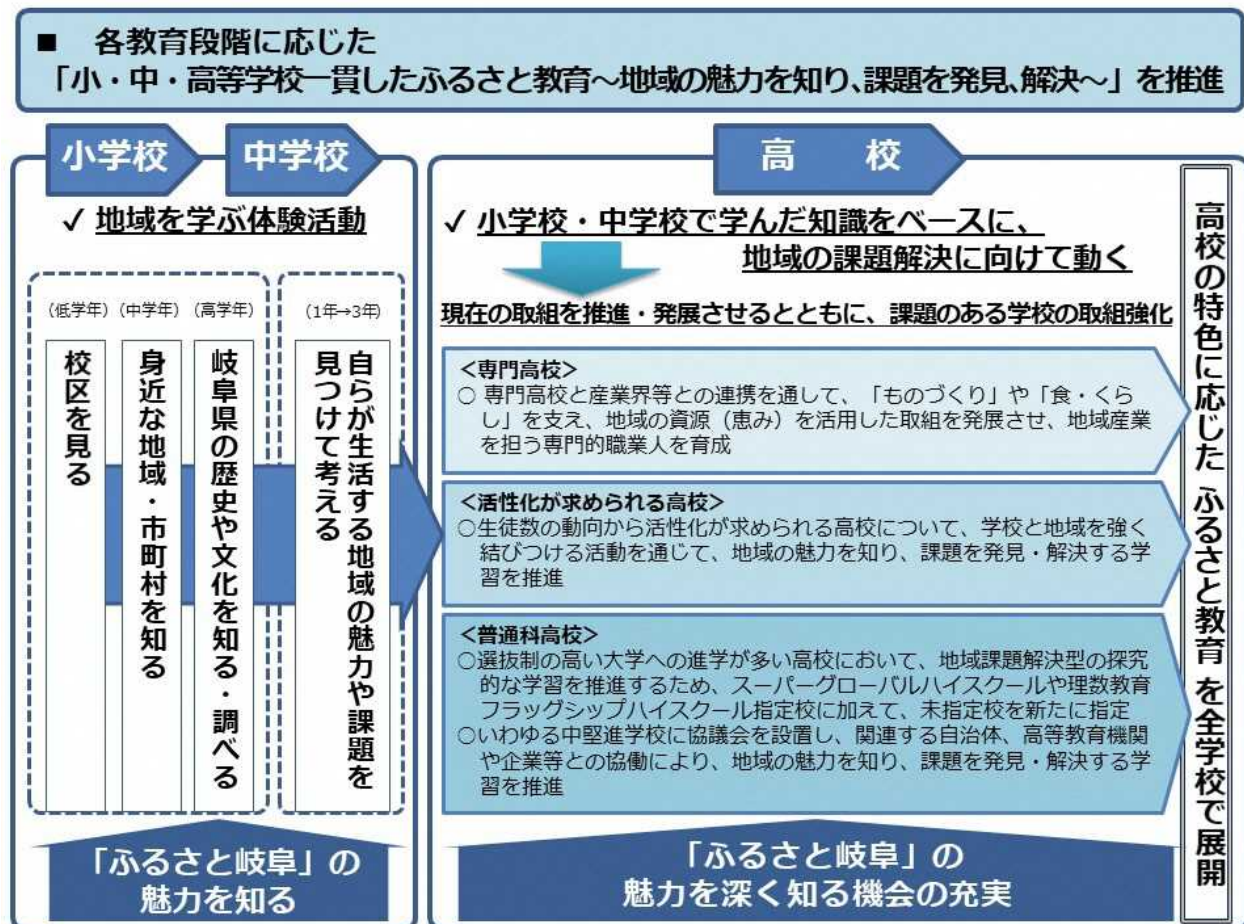
5. 教育委員会等として取組んだ内容

岐阜県教育委員会では、今年度から5年間の教育振興基本計画「第3次岐阜県教育ビジョン」において、「ふるさと教育」を県の重点施策に掲げ、特に高等学校において、地域課題解決型のキャリア教育が重要であるとした。それに合わせて今年度は、全県立学校に対し、それぞれの高校の特色に合わせた「ふるさと教育」の実践を支援する予算措置や普通教室等へのICT環境の整備を行うとともに、普通科高校においても、「地域創生キャリアプランナー」として、地域との連携に関わるキャリア教育コーディネーターの役割をもつ外部人材の配置を拡充した。

当該校には、地域の有識者による高校活性化のための検討会議「地域連携による活力ある高校づくり推進協議会」の設置と運営に関する予算措置を行うとともに、今年度からは地教行法に則り「学校運営協議会」を設置し、「コミュニティ・スクール」とした。

また、平成30年度より「理数教育フラッグシップハイスクール（アクティブ・ラーニングの推進等、主に理数教育の活性化を目指す本県の事業）」の指定（5年間）、1学級30人の入学定員の設定、平成31年度からの進学重点型単位制への移行等、県教育委員会として活性化をより一層支援した。

本実践研究から得られた成果については、次年度以降に県教育委員会が主催する教育課程講習会等の様々な機会に他校に紹介し、活用を促していく予定である。



「第3次岐阜県教育ビジョン(平成31年度～令和4年度)」の主要施策「ふるさと教育の推進」

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：岐阜県立吉城高等学校（理数科・普通科）

概要

「課題解決能力をもった、地域の未来を担う志をもった人材を育てる」ことを目標に、「授業、課外活動で実施される地域を学びの舞台にした学習プログラム」を開発する。

- 市行政や地域の方々との意見交換を通して地域の課題を発見し、解決の方策をチームで検討・企画し、その実践を通して課題解決能力を育む学習プログラムを実践した。
- 具体的には、学校設定科目「地域課題探究」において、観光を主な産業とする地域社会の現状を、市観光課や、地域住民等へのヒアリングを通して発見し、その課題解決策を生徒が自ら考え、企画し実践する一連のプロジェクトにより、生徒の能力・行動特性を引き出すことを試みた。

学習プログラムの目標

- 地域の協力者や外部講師等との連携を行う「地域創生キャリアプランナー」や「キャリア教育コーディネーター」の活用を図り、生徒の地域課題理解力、課題解決力をより効果的に育成することで、吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクトを深化・発展させる。
- 他県の先進的実践校を訪問し、効果的な連携手法やカリキュラム内に位置づけた教育実践について学んだ成果を本校に還元したり、情報発信したりすることで、本事業で開発した学習プログラムをさらにブラッシュアップする。
- YCKプロジェクトにおける評価手法の質を高め、学習教材としての年間計画やワークシート、生徒の成長を評価するルーブリック等の開発と、それについての情報発信に力を入れる。
- 市議会の傍聴や市議会議員と意見交換、市議会議員による生徒のパネルディスカッションの傍聴、市議会議員による文化祭での「おでかけ市議会」の開催、市長による高校生対象にした課題解決のための特別講座等の実践から、生徒の主権者意識を高める。

学習プログラムの主な内容

- ① 「YCKプロジェクト オリエンテーション」（総合的な探究の時間、総合的な学習の時間）

これからの社会で求められる学力と地域を学びのフィールドとした本校の課題解決型キャリア教育「YCKプロジェクト」の意義を説明した。各活動への主体的な参加を促し、学校設定教科「ESD」における学校設定科目「地域課題探究」及び「国際理解探究」の募集を行った。
- ② 「市長の特別講座～地域課題解決～」（課外活動）

「市の行政そのものが『大きなYCKプロジェクト』である」と語る飛騨市長が夏の特別講座の教壇に立ち、「地域課題の解決法を考える～飛騨市の現状と課題から～」と題したワークショップを展開、地域住民を交えた多様な人々とともに学んだ。
- ③ 「ひだしん前発展会夏祭りミッション」（学校設定科目「地域課題探究」）

地域が開催する「ひだしん前発展会夏祭り」での探究活動を考え、「つるし飾り研究会」に協力していただき、つるし飾りをアレンジしたキーホルダーや髪留めを作る体験コーナーを企画・運営した。
- ④ 「飛騨みんなの博覧会ミッション」（学校設定科目「地域課題探究」）

飛騨市が主催する「飛騨みんなの博覧会」プログラムの1枠をもらい、「孫の日」のイベントを企画・運営した。自分たちが企画するイベントを広く市民に知ってもらうために、マーケティング支援者の方にパンフレット作成のノウハウを学んだり、メディアを使って広報したりして様々な広報活動を試みた。
- ⑤ 「三寺ミッション」ワークショップ（学校設定科目「地域課題探究」）

飛騨市図書館で、「地域課題探究」地域イベントコースの生徒13名が、「三寺まいり」に関わる円光寺住職、高校生の活動を支援する飛騨市役所と観光協会の職員に参加していただき、ワークショップ形式での検討会議を実施した。
- ⑥ 「三寺ミッション」当日の活動（学校設定科目「地域課題探究」）

「お寺をもっと身近な場所にしたい！」という目標を実現するために、三寺まいりの当日、本堂を借りて、参加者と一緒に飛騨の魅力を再発見する対話型イベント「お寺で語ろう私たちの飛騨」を実施し、これまで三寺まいりについて調べてきたことをまとめ、発表した。
- ⑦ 「吉高地域キラメキ（YCK）報告会」（総合的な探究の時間、総合的な学習の時間）

地域での活動を通して学んだ成果を、全校生徒、地域連携による活力ある高校づくり推進協議会委員、市議会議員、活動に協力した地域の方々、県内外の教育関係者に報告して体験を共有するとともに、YCK活動の意義を確かめた。

学習プログラムの成果の概要

この活動を通して、生徒は仲間とともに地域の様々な人々と協働し、プロジェクトをやり遂げたことで自信を深めた。地域の方々の温かい声掛けや励ましを受け、対話を重ねながらプロジェクトを進めるうちに、地域に参画することで得られる喜びを実感するようになった。生徒が「自分が成長した」と評価した内容は以下のとおりである。

- (1) コンピテンシー **主観的な評価**：人と自分にベストな関係をもたらそうとする力
自己評価において、「親和力」「統率力」「感情抑制力」「自信創出力」「課題発見力」「計画立案能力」等の9つの評価項目全てで、活動後に数値が上がった。特に「行動持続力(2.2→3.8)」「企画立案力(2.1→3.9)」「実践力(2.4→4.2)」において伸びが顕著であった(5段階)。
- (2) リテラシー **主観的な評価**：知識を活用して問題を解決する力
自己評価において、「情報収集力(2.3→4.0)」「情報分析力(2.1→3.5)」「課題発見力(2.1→3.9)」「構想力(2.0→3.8)」の4項目ともに、活動後に数値が上がった。
- (3) 地域への愛着等 **主観的な評価**：本校が設定した独自項目
活動前後で「地域への愛着(2.6→4.0)」「自分は地域の中にいる(2.3→3.7)」「地域に戻って貢献する(2.5→3.6)」「進路目標が明確になった(2.4→3.7)」の4項目ともに、数値が上がった。
- (4) ジェネリックスキル測定テスト(PROG-H)の活用
変化する社会で求められる汎用的な能力(ジェネリックスキル)を測定し、課題を解決する力とともに行動特性を可視化することで1年間を通じた伸長を把握することを目的に、学校設定科目「地域課題探究」選択者を対象として、5月と2月に実施した。
リテラシー(知識を活用して課題を解決する力)とコンピテンシー(経験を積むことで身に付いた行動特性)、LEADS(学習・生活状況調査)の3科目を受験した。
 - コンピテンシー **客観的な評価**：人と自分にベストな関係をもたらそうとする力
「対人親和力(3.4)」「対人協働力(3.4)」「対人統率力(2.4)」「感情制御力(2.2)」「自信創出力(2.4)」「行動持続力(2.6)」「課題発見力(2.7)」「企画立案力(2.8)」「実践力(3.0)」
 - リテラシー **客観的な評価**：知識を活用して問題を解決する力
「情報収集力(2.1)」「情報分析力(1.9)」「課題発見力(2.4)」「構想力(2.7)」
 - 志向タイプ **客観的な評価**：「キャリア意識の高低」「時間の使い方」から分類
「勤勉(27%)」「交友充実(19%)」「単独傾向(19%)」「目標必要(12%)」「進学準備中(19%)」「分類不可(4%)」
 - リテラシーとコンピテンシーのバランス **客観的な評価**
「リテラシー○コンピテンシー○(24%)」「リテラシー△コンピテンシー○(24%)」「リテラシー○コンピテンシー△(19%)」「リテラシー△コンピテンシー△(33%)」
という結果であった。